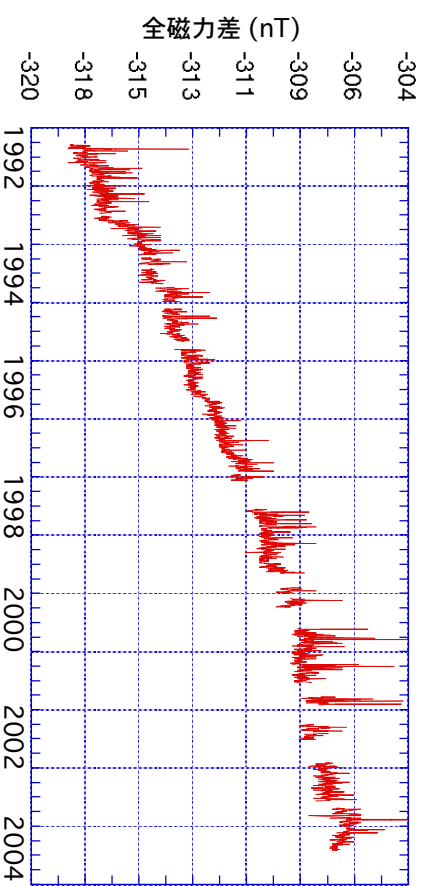
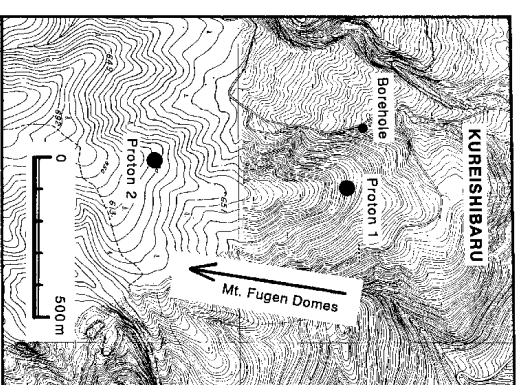
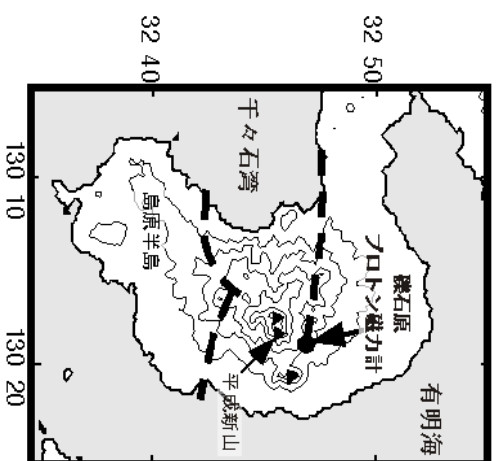


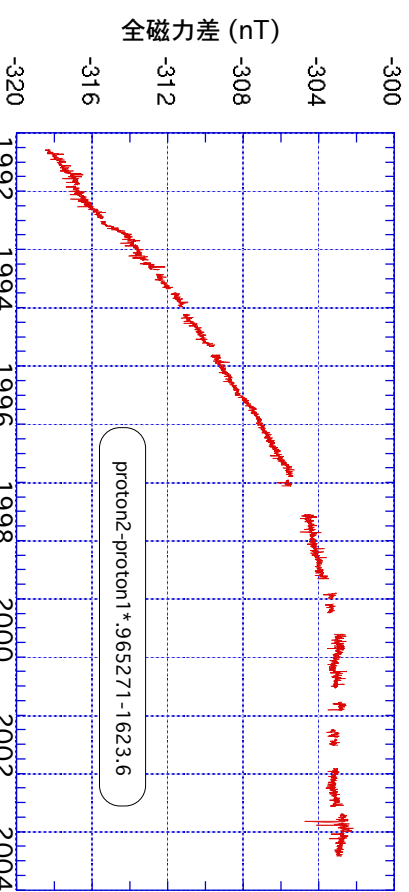
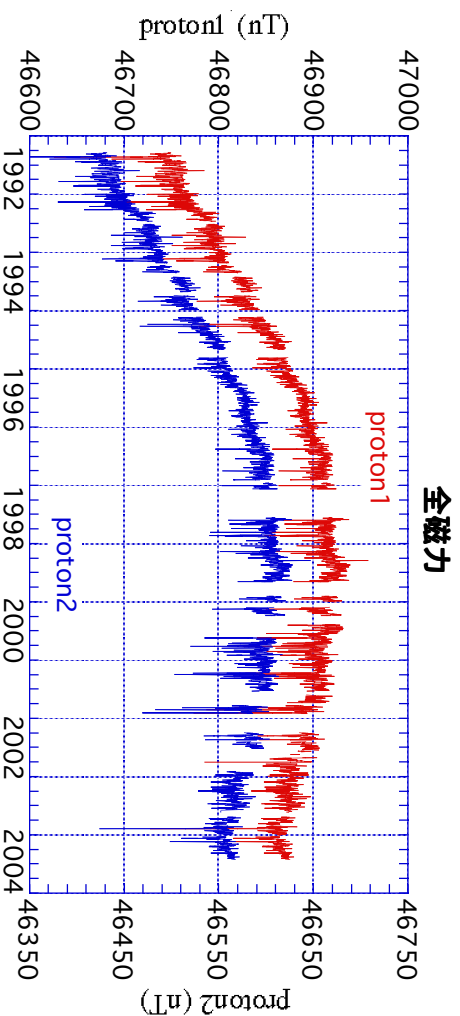
雲仙岳北麓における全磁力変化

九州大学地震火山観測研究センター



全磁力差 (純差)

単純差では約1.2nT/yrの増加傾向が見られる。このうち両地点には1度0.5分の伏角の違いがあり、最近の九州地方の地磁気永年変化(垂直分力+30nT/yr)を考えると、約+0.4nT/yrは永年変化で説明できる。



2地点の全磁力差のばらつきが最小になるように1992年5,6月のデータを
使用して係数を決定した。2000年より全磁力差が頭打ちとなり、消磁傾
向が停止している。